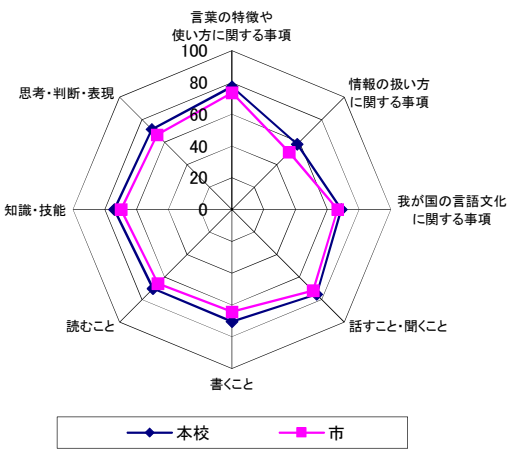


宇都宮市立城東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	77.3	73.5	74.4
	情報の扱いに関する事項	58.2	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	68.9	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	75.4	72.3	73.7
	書くこと	70.5	64.3	66.6
	読むこと	70.2	65.8	64.9
観点別	知識・技能	74.0	69.8	70.8
	思考・判断・表現	71.4	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

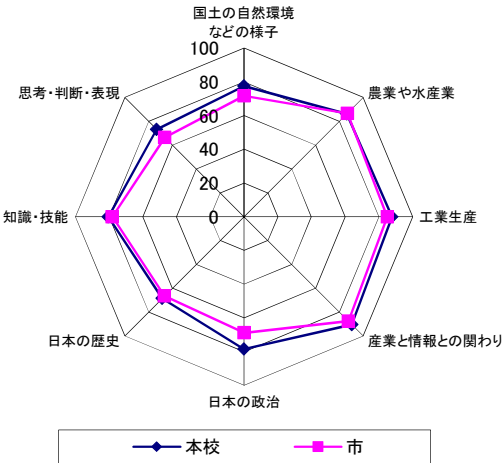
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使いに関する事項	○本校の平均正答率は77. 3%で、市の平均正答率を3. 8ポイント上回っている。 ○文と文との接続の関係を答える問題については、平均正答率は65. 6%で、市の平均正答率を14. 3ポイント上回っている。 ○敬語について理解し、正しく使っているものを選択する問題については、市の平均正答率を10. 6ポイント上回っているものの、平均正答率は32. 8%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・敬語の種類や使い方について、ドリル学習などを通して理解を深めるとともに、日々の生活の中で適切な敬語を使うことができるように指導していく。 ・漢字スキル等を利用して、漢字の読み書きの定着を図るとともに、文脈に沿って適切に漢字を使えるようにしていく。
情報の扱い方 に関する事項	○本校の平均正答率は58. 2%で、市の平均正答率を7. 2ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題については、市の平均正答率を6. 1ポイント上回っている。	・文章中の情報と情報との関係を理解するために、文章を読むときには、情報を整理しながら読み取るよう指導していく。
我が国の言語文化 に関する事項	○本校の平均正答率は68. 9%で、市の平均正答率を2. 4ポイント上回っている。 ○語句の由来に興味をもち、和語、漢語、外来語について答える問題については、市の平均正答率を2. 4ポイント上回っている。	・和語、漢語、外来語について、より興味をもって学習できるように、調べ学習などを取り入れながら、知識を深めていく。
話すこと・聞くこと	○本校の平均正答率は75. 4%で、市の平均正答率を3. 1ポイント上回っている。 ○意図に応じて、質問を工夫する問題については、市の平均正答率を5ポイント上回っている。	・話の内容を捉えながら聞く力を高めるために、話の流れや中心となる事柄をメモしたり、話の要点をまとめたりする活動に取り組みさせていく。
書くこと	○本校の平均正答率は70. 5%で、市の平均正答率を6. 2ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する問題については、市の平均正答率を16. 4ポイント上回っている。	・文章を書くことに苦手意識をもたないよう、日頃から振り返りの記述や作文指導などを通して、文章を書く習慣をつけていく。また、字数を制限するなど条件に合った文章を書く機会を設け、書き方等を指導していく。 ・文章を書くときには、自分の体験やデータなどの根拠を示したり、情報を整理して取捨選択したりするなどして、目的に応じた説得力のある文章を書くよう指導していく。
読むこと	○本校の平均正答率は70. 2%で、市の平均正答率を4. 4ポイント上回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題については、市の平均正答率を9. 3ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理して短答する問題については、市の平均正答率を8. 3ポイント上回っている。 ○文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する問題については、市の平均正答率を5. 7ポイント上回っているものの、平均正答率は41%であった。	・説明文を読む際に、文章全体の構成を捉えたり、要旨を把握したりしながら読み取ることができるよう指導していく。 ・説明文の読み取りに苦手意識をもたないよう、比較的内容が簡単な説明文を読み取る機会を増やしていく。 ・説明文を読み取るときには、目的や情報を意識しながら、叙述に即して読み取っていくよう指導していく。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	77.5	71.6	69.6
	農業や水産業	86.2	86.7	83.7
	工業生産	87.8	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	90.5	87.7	77.4
	日本の政治	78.6	68.9	71.7
	日本の歴史	68.7	66.7	66.3
観点別	知識・技能	80.5	78.0	76.7
	思考・判断・表現	73.2	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

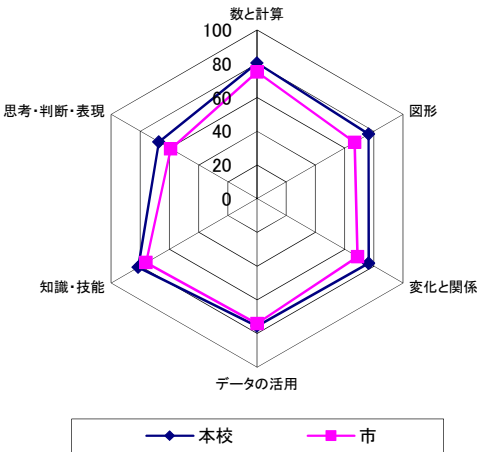
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	○本校の平均正答率は77. 5%で、市の平均正答率を5. 9ポイント上回っている。 ○オーストラリアの位置と国旗を理解しているかを問う問題では、本校の平均正答率は92. 1%で、市の平均正答率を11ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・全ての問題で、市の平均を上回っている。引き続き、個に応じた指導を心掛けたり、ICTを有効活用したりして、さらなる学力向上に努めていく。 ・国内の林業が抱える課題について考える問題では、市の平均正答率を上回ってはいるものの、本校の平均正答率は38. 1%と低いことから林業だけでなく、農業や漁業等とも関連付けて指導をしていく。
農業や水産業	○本校の平均正答率は86. 2%で、市の平均正答率とほぼ同じである。 ●米の生産工程についての問題では、本校の平均正答率は76. 2%で、市の平均正答率を5. 4ポイント下回っている。	・グラフや表、図などの資料から分かることを読み取ったり、分かったことから自分の考えを表現したりする学習を、今後も継続していく。 ・米の生産工程については、学校周辺に田畑がほとんど見られないことから、実際に体験したり見学したりする活動が難しいので、ICTを活用して理解の定着を図る。
工業生産	○本校の平均正答率は87. 8%で、市の平均正答率を2. 8ポイント上回っている。 ○日本の工業の特色について、資料をもとに表現する問題では、本校の平均正答率は81. 0%で、市の平均正答率を7. 6ポイント上回っている。	・日本の主な鉱産資源の輸入品と輸入相手国について調べる学習を通して、外国との貿易が日本の工業生産を支える重要な役割を果たしていることに気付かせ、学習への興味・関心を高め、理解の定着を図る。
産業と情報との関わり	○本校の平均正答率は90. 5%で、市の平均正答率を2. 8ポイント上回っている。 ○さまざまなメディアの特徴について答える問題では、本校の平均正答率は100%であった。学習したことがしっかりと身に付いているといえる。	・インターネットの便利さを認識し、活用している児童は増えてきている。学級活動などで、インターネットの活用の仕方について話し合う活動を引き続き行うことで、理解を深めたい。 ・身の回りにあるメディアの特徴について、調べる活動を通して理解の定着を図る。
日本の政治	○本校の平均正答率は78. 6%で、市の平均正答率を9. 7ポイント上回っている。 ○天皇の地位についての問題では、本校の平均正答率は77. 8%で、市の平均正答率を14. 8ポイント上回っている。また、内閣の働きについての問題では、本校の平均正答率は65. 1%で、市の平均正答率を22. 7ポイント上回っている。	・日本国憲法で定められた国民の権利や義務について、生活の中でどのように生かされているのか、テレビや新聞記事等を活用し、興味をもって学ぶことができるように支援していきたい。 ・国会の働きについては、テレビの国会中継等、身近にある具体的な例を挙げて学習することを通して、理解の定着を図る。
日本の歴史	○本校の平均正答率は68. 7%で、市の平均正答率を2ポイント上回っている。 ○源平の戦いの理解をもとに、資料を判断する問題では、本校の平均正答率は74. 6%で、市の平均正答率を18. 9ポイント上回っている。 ●書院造の部屋の特徴について答える問題では、本校の平均正答率は77. 8%で、市の平均正答率を7. 9ポイント下回っている。	・古墳時代の大王について記述する問題や、鎌倉時代の元との戦いをもとに、複数の資料を組み合わせる問題の平均正答率が50%を下回ったことから、資料をもとに学習したことを文章やスライドなどで表す活動を取り入れることで、表現力を高め、日本の文化や歴史についての理解を深めたい。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.5	75.1	75.8
	図形	76.4	66.8	68.3
	変化と関係	76.5	68.8	65.0
	データの活用	75.6	74.1	63.6
観点別	知識・技能	81.4	76.1	75.8
	思考・判断・表現	67.2	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

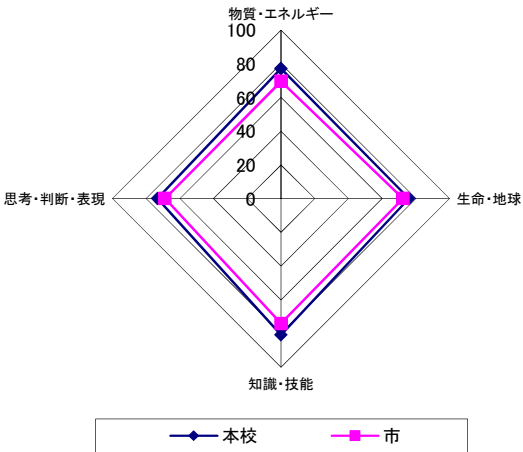
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は80. 5%で、市の平均正答率を5. 4ポイント上回っている。 ○文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す問題では、市の平均正答率を9. 8ポイント上回っている。 ○2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める短答式の問題では、市の平均正答率を13. 7ポイント上回っている。 ●図を見て、小数倍(何倍かを求める)を求める問題では、市の平均正答率を3. 9ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算技能の定着が見られる。今後もAIドリルなどを活用しながら基本的な計算練習を繰り返し行い、より正確な計算技能が身に付くよう指導していく。 ・図を見て、小数倍を求める学習活動を意図的に設定し、数直線や図などを用いたり、具体的な場面に当てはめたりして、分かりやすく捉えさせ、思考力を高めるようにする。
図形	○本校の平均正答率は76. 4%で、市の平均正答率を9. 6ポイント上回っている。 ○「図形」領域において、どの問題も市の平均を上回っている。 ○角柱の体積を求める短答式の問題では、市の平均正答率を16. 1ポイントと大きく上回っている。 ○線対称と点対称について理解し、既習の図形から線対称でも点対称でもある図形を選ぶ問題では、市の平均正答率を14. 7ポイントと大きく上回っているものの、平均正答率は54. 1%であった。	・面積や体積の問題では、長方形の面積や直方体の体積の求め方を活用して、様々な図形の面積や体積が求められることを視覚的にイメージできるよう、デジタル教材などで確認するとともに、体積や面積を求める問題を反復練習し、定着を図る。 ・習熟度学習の充実や確認テストの実施などにより、知識の定着を図るとともに数学的思考力を高めるようにする。
変化と関係	○本校の平均正答率は76. 5%で、市の平均正答率を7. 7ポイント上回っている。 ○「変化と関係」領域においても、どの問題も市の平均を上回っている。 ○基準量と比較量から割合を求める問題では、市の平均正答率を13. 4ポイントと大きく上回っている。	・単位量あたりの大きさについては、引き続き、表や図を用いて考える力が身に付くよう指導していく。 ・速さや道のりについては、単位の関係や道のり・速さ・時間の関係を確認し、日常生活の中でも活用できるようにする。
データの活用	○本校の平均正答率は75. 6%で、市の平均正答率を1. 5ポイント上回っている。 ○走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときに、およそ何歩かかるかを求める短答式の問題では、市の平均正答率を9. 8ポイント上回っている。 ○問題の場面を理解し、4日間走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求めて、求め方を説明する記述式の問題では、市の平均正答率を7. 6ポイント上回っている。	・グラフやドットプロットから読み取ったデータの特徴や傾向から考えたことを話し合う活動を充実させ、児童がグラフやドットプロットを活用することのよさを実感できるような指導を継続していく。 ・AIドリルの活用により基本問題の定着を図る。 ・記述式の問題に取り組む機会を増やし、考え方や解答の仕方などに慣れるよう指導する。

宇都宮市立城東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	77.1	69.5	65.2
	生命・地球	75.8	72.3	70.1
観点別	知識・技能	80.8	74.0	70.7
	思考・判断・表現	73.3	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○本校の平均正答率は77.1％で、市の平均正答率を7.6ポイント上回っている。 ○「電流の向きを変えたとき、電磁石がどの向きを向いて止まるかを推察することができる。」の設問の平均正答率は74.6％で、市の平均正答率を16.3ポイントと大きく上回っている。 ●「乾電池2個を使って電磁石のはたらきを強くするために、直列つなぎにすることができる。」の設問の平均正答率は66.7％で、市の平均正答率を6.8ポイントとやや下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・見通しや方法も分からないまま観察・実験をしたことがあるため、事故や失敗を防ぐとともに、指導と配慮で実感を伴った理解を図るようにする。また、結果の考察による結論の導出を丁寧に行い、問題解決能力を育む。 ・発電や蓄電、電気の変換についての理解を深められるよう、電気を利用している道具を調べたり、電気の効率的な利用の仕組みをプログラミングで体験的に学んだり、授業の展開を工夫する。
生命・地球	○本校の平均正答率は75.8％で、市の平均正答率を3.5ポイント上回っている。 ○「浸食について理解している。」の設問の平均正答率は85.7％で、市の平均正答率を15ポイント上回っている。 ●「実験の結果から、和歌がよまれたときの月の形を推測することができる。」の設問の平均正答率は17.5％で、市の平均正答率を15.3ポイント下回っている。	・「生物とかんきょう」では、外来種の生物が環境に与える影響について、具体的な事例を挙げながら考えさせたり、タブレットを活用して調べさせたりすることで、知識の定着を図る。 ・「月と太陽」では、月と太陽の位置関係のモデルを見て月の形を考えることができるよう、自然現象についての理解を深める学習場面を多く設定する。

宇都宮市立城東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、昨年度まで「校内漢字・計算検定」を年間10回ずつ実施してきた。今年度からは、各学年で、漢字や計算を中心とする基礎的基本的な内容について、年間を見通して計画的に練習や確認等を行い、定着に努めている。また、朝の学習（パワーアップタイム）を活用して、学年や学級で、プリントやドリル学習などを計画的に実施している。	国語の漢字の読み書きについては、ほとんどの問題で市の平均正答率とほぼ同等であった。 算数の「数と計算」では、ほとんどの計算問題で市の平均正答率を上回っていた。しかし、純小数同士の乗法（小数第一位×小数第一位）の計算問題において、市の平均正答率を3.8ポイント下回り、平均正答率は62.3%であった。
児童が考える楽しさを味わい、進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	本校では、学びの「城東スタイル」を掲げ、学校全体で共通理解のもと、児童が学ぶ楽しさを感じながら、思考力・判断力・表現力を発揮して、主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確に示して、見通しをもって自らの課題に取り組んだり、友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という質問に対して、全ての学年で市の肯定的回答を下回っていた。また、「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問に対して、3・4・5学年で市の肯定的回答を下回っていた。 4教科とも、「思考・判断・表現」「知識・技能」全ての観点において、市の平均正答率を上回っていた。今後も児童が学ぶ楽しさを感じながら、主体的に学習に取り組めるような授業づくりに努めていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が市の平均正答率を上回っており、計画的に取り組んでいる練習や確認の成果と考えられる。今後はさらに、学年の配当漢字を文の中で正しく使えるよう意識させたり、文章の中で漢字を書く機会を意図的に設けたりすることで、漢字や作文の技能を高めていきたい。また、算数では、「数と計算」の正答率が市の平均正答率を上回っており、計算の基礎技能が定着してきたと考えられる。今後も継続して計画的な練習や確認を行い、基礎基本の定着に努めていく。

・今後も各教科等でめあてやねらいを明確にし、児童が学習した内容を自分の知識と関連付けて考えたり、友達と学び合って考えを深め合ったりして、思考したことやその過程を表現する活動が充実する授業づくりを目指していく。授業のまとめや振り返りにおいては、学習したことを見つめ直し、目的を意識して自分の考えを表現できる力を育成していく。

・学習に関する質問では、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」に対する肯定的回答は、全ての学年で市の肯定的回答を下回っていた。また、「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」に対する肯定的回答は、それぞれ半分の学年で市の肯定的回答を上回っていた。今後もさらに、児童が学ぶ楽しさを感じながら、主体的に学習に取り組めるような授業づくりに力を入れていきたい。また、「調べたことをパソコンを使ってまとめることができる」に対する肯定的回答は、4、5年生で市の肯定的回答を上回っていた。ノートによるまとめだけでなく、パソコンを使ったまとめについても継続して指導し、最終的には児童がまとめ方を選択できるようにしていきたい。

・家庭での学習に関する質問では、「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」に対する肯定的回答は、3～6年生全てで市の肯定的回答を下回っていた。今後は、自主学習ノートを活用した指導を充実させ、計画的に習ったことを復習したり、テストだけでなく間違えた問題をきちんとやり直したりすることが習慣化するように継続して指導していく。